

第26回広州日本人学校運動会



10月31日(土)第26回広州日本人学校運動会が盛大に開催されました。10月に入り、日本から広州に戻ってくる児童生徒が増え、国慶節明けから各学年工夫しながら本格的な練習に取り組んできました。今年は、全校児童生徒を紅白の二色に分かれて優勝杯と白雲賞を競い合いました。今回は白雲賞がかかる応援合戦について紹介します。

応援合戦では、各色の応援団が中心となり、応援歌やその振り付けを考えます。応援団は、その歌や振り付けを、応援団以外の児童生徒に教えるという大きな役割があります。すべての児童生徒がそろわない状況の中で、中学部2年の生徒が応援団長として、体育の時間や昼休みなどに練習をリードしました。はじめは、大きな声が出せなかったり、うまく伝えられなかったりと課題の残る練習が続きました。練習後に何度も応援団と担当教師が、どうすれば「良い応援になるか」「他のメンバーに歌や振り付けを覚えてもらえるか」など話し合いを重ねました。しかし、試行錯誤を

重ねる中で、応援団の表情や声からも、自信をもって他のメンバーの前に立つことができるようになりました。堂々と応援できるようになったことで団結力も強まり、運動会前日は各組最高の状態に仕上がりました。

そして、天候にも恵まれた本番。理事長の講評の中でも、「各組、甲乙つけがたい出来だった」とあったように、児童生徒たちは最高のパフォーマンスを披露してくれました。そして何より素晴らしかったことは、児童生徒たちが応援合戦の時だけでなく、全プログラムの中で、頑張る仲間を心から「よくやった」と応援する姿や相手を思いやる拍手をする姿がみられたことです。その姿は会場にいた多くの人に感動を与えたと思います。

運動会を通して、児童生徒たちは多くのことを学ぶことができました。2学期後半も、児童生徒、保護者、教職員で力を合わせて広州日本人学校を盛り上げていきたいと思えます。